

## Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

～ グローバルな視野とローカルな視点からの学び ～

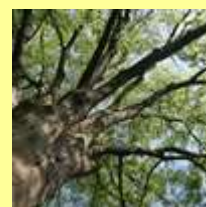
Newsletter No.11  
2017.11.19.

事務局 kyoikujuku.hiroshima@gmail.com  
URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>  
〒730-0036 広島市中区袋町6番36号  
広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックスNo.7

### 地球市民共育塾ひろしま



Have a Dream...  
Do the Action!  
for  
the Better Future



世界中の人々が一人ひとりと幸せに生きられる。そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」。取り扱うテーマも十人十色。「開発教育」に関心のある人なら、だれでも参加できます。参加型の学習会を定期的に行っています。

～ あなたも地球市民共育塾ひろしまで一緒に学びませんか？ ～



## SDGsの17の目標

この右のようなマーク(アイコン)を見かけたことはありますか。

これは、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標を視覚的にわかりやすくアピールするために、国連が作成したアイコンです。

SDGsとは、国連が、世界の貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指して、世界の人々に普遍的な行動を呼びかけているものです。



[http://www.unic.or.jp/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo\(JP\)-and-17-icons.march-2017.pdf](http://www.unic.or.jp/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo(JP)-and-17-icons.march-2017.pdf)

# ウーリーシンキングで考える 私と課題とのつながり

2017年9月16日(土)

主催: サンネット中国

共催: 地球市民共育塾ひろしま

会場: 川崎医療福祉大学

この地球上の問題や課題は、身近なものから国境を越えた地球規模のものまで多様な形で存在しています。それらの課題は個々独立して存在しているわけではなく、それぞれが複雑に絡み合っています。ある課題を解決しようとしても、相互の関連性を理解した上で取り組まなければ、真の意味での問題解決には結びつきません。さらに、そのつながりの中に自分も存在しているという自覚が大切です。ただ日常生活においてこうした「つながり」に気づき、意識することは難しいことです。この「つながり」に気づき、意識化する「ウーリーシンキング」というワークショップを9月16日に、サンネット中国との共催で行いました。

「ウーリーシンキング」の“ウール”とは「毛糸」の意味です。ワークショップでは地球上の様々な課題が、どのように関連し複雑に絡み合っているのか、毛糸を使って視覚的に捉え、課題と自分とのつながり、課題解決の当事者性について考えることがねらいです。

まず参加者は2～3人×10グループに分かれ、関心のある課題についてブレインストーミング。その中から10の課題を選び出します。今回は「大量消費社会」「持続可能な社会」「子育て」「排外主義」「ディスニーランド」「教育の問題」「国際協力」「貧困」などが選ばれました。これらの課題を各グループに割り当てます。次に、与えられた課題と他のグループの課題との関連性を見出し議論します。そうして相互の課題につながりが見つかれば、その2つの課題(グループ)どうしを毛糸でつなぎます。別の課題とも関連があれば、この作業を繰り返します。しだいに毛糸は「くもの巣」のように絡み合っていきます。

ある程度のとつながりが成立したら、ワークショップを振り返ります。振り返りのポイントは「気がついたこと、考えたこと、感じたこと」「意外なつながりはあったか」「この“クモの巣”を現実の社会に置き換えると、何を表しているか」「このつながりの中で、あなたはどこにいる?」

私がこのウーリーシンキングで参加者に伝えたいメッセージは以下の3点です。

## 1) すべがつながっている

それぞれの課題は個々が独立して存在しているのではなく、構造的につながり相互に関連しあっています。ある課題に取り組むとき、他の課題との関連性を理解し、課題解決に取り組む必要があります。

## 2) 自分もつながっている

課題どうしの関連性だけではなく、そのつながりの中に自分も存在していることを自覚することが大切です。「クモの巣」の一部を揺らすと、その揺れが全体に伝わるように、自分が動くことでそれらの課題に何らかの影響を及ぼします。課題を解決する「力」は自分の中にあるのです。

## 3) どうやって解決していく?

ワークショップの最後の問いかけは、「このクモの巣をどうやってほどこきますか?」。絡まりあった毛糸は、はさみで断ち切ってしまえば簡単に片付けることができます。しかし参加者には毛糸を端から巻き取ってもらいます。これはまさに課題を解決するプロセスです。ひとりで課題を解決するのはなかなか難しいものです。課題につながっているすべての当事者の協力が、課題解決につながる大きな推進力になります。参加者は協力しながら毛糸を巻き取ることで、課題を解決するために必要なことを体感します。

(文=荒川共生)



# 6月例会（学習会）「デザイン思考で教材づくり」

6月17日（土）に県立広島大学（広島キャンパス）ラーニングcommonsで、定例学習会が県立大富田研究室と共催で開かれました。県立大教職員3名を含め計12名の参加があり、最近よく耳にする「デザイン思考」をもとにした参加型教材のプロトタイプ作りを体験しました。

前半は、担当の富田がデザイン思考について解説をしました。簡単にまとめると以下の通りです。

デザイン思考とは、デザイナーの作業手順や考え方を、製品やサービスの企画・開発に取り入れることで、手順も、デザイナーが対象物を観察してデッサンするプロセスが基礎にあります（参考：大塚商会「IT用語辞典—デザイン思考」）。具体的には、図の5つのステップを高速で何度も回します（出典：ダイレクト・コンサルティング株式会社「デザイン思考 Speed & Cost performance」



<https://www.dcc.ne.jp/speed-cost-performance/>。

表は5つのステップの説明です（出典：須藤 順「Design Thinking 入門（2）0から1を創り出すデザイン思考—新たなイノベーション創出手法」<http://www.buildinsider.net/enterprise/designthinking>）。

デザイン思考は教育分野への応用も始まっており、教育課題の解決や新しい教育方法に役立てられています。日本でデザイン思考を学ぶには、大学・大学院や自治体のセミナーで可能です。小学生向けの塾まであります。

後半は、デザイン思考のプロセスを体験しました。今回は（自分以外の）誰かのニーズに合わせた教材のプロトタイプ作りを行いました。

まず、「ペア・インタビュー」を行いました。パートナーの人が経験した授業や教材づくりでの体験から新しい教材をデザインするためのプロセスです。

相手に対する深い共感から始めるのがデザイン思考の特色でもあります。ペアになって、「どんな教材が作りたいか」「どんな授業がしたいか」等を互いに4分づつ質問し、その後さらに「なぜ?」「具体的には?」と掘り下げて4分づつ質問します。これを2回行います。1回目は教員の立場で答えます。2回目は、ユーザーへの疑似調査として学生/生徒の立場で「どんな授業を受けたいか」「どんな教材がワクワクするか」等を答えます。次に、問題を「リフレーミング」します。具体的には、インタビューで聞いた内容から、相手が見たいこと（ニーズ）は何か、パートナーの感情（気持ちから）新しく学んだこと/パートナーの経験からわかる、パートナーがまだ自覚していないことは何かを推測します。このあと、数人のグループに分かれて、グループ毎に誰のための教材をつくるのかを決め、創造のプロセス「アイデアとフィードバック」に移ります。

5分間でパートナーのニーズを満たす驚くべきアイデアを5つ考え、グループでシェアしフィードバックを出し合います。次に、フィードバックを反映させた新しい解決策を3分で考え、その解決策を元に10分で「プロトタイプ」を作りました。最後に他の班のメンバーにプレゼンし、フィードバックをもらって終了です。

短い時間でどんどん次のステップに移っていくという手法に戸惑いましたが、最小限の要素でプロトタイピングを行うという考え方は、教材作りに非常に適した考え方だと実感することが出来ました。

（文=富田和広）

| STEP①<br>共感   | STEP②<br>問題定義  | STEP③<br>アイデア創出   | STEP④<br>プロトタイピング  | STEP⑤<br>検証   |
|---|--|---|--|---|
| テーマ設定<br>参与観察   | 課題定義   | アイデア<br>&<br>コンセプト<br>創造  | 試作<br>(高速&反復)  | ユーザー<br>テスト<br>(リアル)  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実在のユーザーを見付ける</li> <li>• ユーザーを観察</li> <li>• 判断せず、ありのままを受け入れ可視化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザーへの深い理解を行う</li> <li>• ユーザーが気付いていない「本当の目的」「本当の課題」を把握</li> <li>• 「ユーザー自身も気づいていない本当に実現したい本当の目的」を定義</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 定義された目的の達成に向けたアイデアを創出</li> <li>• 質よりも量を重視</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• アイデアの価値を確認するため、高速でプロトタイプを作成</li> <li>• 必要最低限の機能を備えたもの</li> <li>• 「学びの促進」と「価値の確認」が目的</li> <li>• 「早く安く失敗」により手遅れを防ぐ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロトタイプをリアルマーケットへ投入し、フィードバックを受け改善</li> <li>• 方向転換をすることをいとわない</li> </ul> |



# 「地球市民共育塾ひろしま」のご案内



Global Education Network for Sustainable Future Hiroshima (GENS)

## ■「地球市民共育塾ひろしま」(略称・共育塾)とは

Have a Dream. Do the Action! for the Better Future.

「貧困」「難民」「食」「平和」「ジェンダー」「教育」…。取り扱うテーマも十人十色。世界の人々が一人ひとり幸せに生きられる。「地球市民共育塾ひろしま」は、そんな社会を願う人々の「出会い」と「学び」と「行動」の場です。

地球市民共育塾ひろしまは、開発教育やESD(持続可能な開発のための教育)の学び合いを目的とした市民のグループとして、2005年5月に、学生中心の団体であった旧「地球市民共育塾ひがしひろしま」を改組して、「地球市民共育塾ひろしま」として設立、今日に至っています。

## ■開発教育とは

世界で起こっている貧困・飢餓、紛争・戦争、環境破壊、人権侵害といった問題は、日本の社会のあり方や私たちのライフスタイルとも深く関係しています。また日本にも同様の問題が存在しています。開発教育は、私たちひとりひとりが、このような世界のさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。開発教育では、学習者が自ら答えを見出していくプロセスを重要視し、そのためロールプレイ、ディベート、ランキング、フォト・ランゲージ、シミュレーションなどのようなワークショップ(参加型学習)と呼ばれる手法を用いています。

地球市民共育塾ひろしまは、地域課題に根ざした参加型の開発教育教材の作成にも取り組んでいます。

## ■広島県ユネスコESD大賞

地球市民共育塾ひろしまは、昨年2016年12月、これまでの活動を評価していただき、広島県ユネスコ連絡協議会主催の第3回広島県ユネスコESD大賞(社会部門)を受賞することができました。

## ■みなさんも参加してみませんか

共育塾では、教材づくり以外にも、連続講座の実施、「広島市まちづくり市民交流フェスタ」へのワークショップ企画参加、「広島市国際交流・協力の日」へのブース出展、他団体との協働事業などや、セミナー等への講師派遣なども行っています。また、共育塾ではメーリングリスト会員制度もあり、教職員、会社員、国際協力関係者、NGOや地域活動関係者、研究者、大学生・院生など多様なジャンルの方々100人以上に登録していただき、情報交換を行っています。

ご関心のある皆さまのご参加をお待ちしております。



■役員 代表：荒川純太郎(共生庵・地球市民共育塾共同主宰)

事務局代表：中須賀裕幸・服部淳子

教材づくり代表：富田和広・岡田祐一

## ■刊行物

- ・『地球市民共育塾ひろしま年次報告』(No.1~No.5)。
- ・『中国地区開発教育担い手連携・スキルアップ連続講座報告書』。
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島」「ヒロシマ」「Hiroshima」』
- ・研究成果報告書『広島の開発教育・ESD』
- ・教材集『参加型で学ぶ「広島と多文化共生」』

■ホームページ URL <http://genshiroshima.web.fc2.com/>

■メール: [kyoikujuku.hiroshima@gmail.com](mailto:kyoikujuku.hiroshima@gmail.com)

■問い合わせ先: 〒730-0036 広島市中区袋町6番36号

広島市まちづくり市民交流プラザ内 メールボックスNo.7

